

保育園における「かみつき」をいかにして減らすか

保育士を対象とした「かみつき」アンケートの分析から

西川由紀子

(華頂短期大学)

はじめに

「かみつき」問題は、特に1歳児クラスで年々大きな問題になっている。そこには、育児休暇明けの入園希望者が増えていること、規制緩和により定員より多い子どもの受け止めが可能になったこと、保護者との関係の作り方が困難になってきていることなど、多くの原因がある。

「かみつき」は保育園ではよくあることではあるが、あってはならないことととらえ、「かみつき」を減らす方法を考えることが重要である。そこで、今回保育士を対象としたアンケートを実施し、「かみつき」の実態を分析した。

アンケートの実施

・調査対象 京都市昼間里親連絡会第3回研修会(2002.11.30)参加者、保育大学(2002.12.1)講座「子どもの発達を学ぼうー乳児期の発達を中心にー」参加者、京都保育問題研究会講座(2003.2.2)参加者、京都保育問題研究会2003年10月部会参加者。

・配布方法 参加者全員に配布し記入し講座終了後に提出するか、後日FAXにて送信するよう求めた。

・回収枚数 京都市昼間里親連絡会第3回研修会19通、保育大学51通、京都保育問題研究会講座67通、京都保育問題研究会2003年10月部会8通、計145通。

結果と考察

①「かみつき」の有無

表1. 各年齢クラスにおけるかみつきの有無
(単位:人, %)

	有り	無し	合計
0歳クラス	21 81%	5 19%	26
1歳クラス	42 95%	2 5%	44
2歳クラス	23 82%	5 18%	28
3歳クラス	4 44%	5 56%	9
4歳クラス	5 56%	4 44%	9
5歳クラス	1 25%	300 75%	4
混合クラス	22 85%	4 15%	26
合計	118 81%	28 19%	146

における「かみつき」も少なくない。

②「かみつき」のあるクラス、ないクラス

率が最も多かったのは、1歳児クラス9名を2人の保育士が見ているクラスであった。1歳児で「かみつき」がないクラスは、7名を2人が見ているクラスと、14名を3人が見ているクラスであった。全体を通じて、クラス規模や保育士の人数だけでは、一定の傾向は見つけられなかった。これは、「かみつき」の原因

に保育室の環境、子どもの年齢構成、個性などさまざまな要因が重なっていることを示すものである。

③「かみつき」が起こる時間帯

表2の通り、昼食の片づけからお昼寝への切り替えの時間帯に集中して「かみつき」が起こっている。この時間帯は、食べるのが遅い子の食事指導、食べ終わった子の着替え、排泄指導、食器片づけ、掃除、お昼寝の準備と、保育士がめまぐるしく働く時間帯である。保育士が多くの仕事をかかえる中で、子どもは食事にも、着替えにも、その後のあそびにも強く保育士を求めている。加えて、眠さも重なっている。「かみつき」が一日中起こるのではなく、このように起こる時間帯が予測されているのであれば、その時間帯の過ごし方に工夫が必要なのではないか。具体的には、この時間帯に保育士の配置を増やす、この時間帯にしている仕事の中から後回しに出来るものを探す、手抜きできる仕事はないか検討するなどが考えられる。

④「かみつき」の原因

表3より、ものや場所の取り合い、その防御、加えてイライラが原因と考えられる。ものや場所の取り合いについては、子どもが集団で生活するときにそれをなくすことは不可能であり、また、「ぼくが使いたい」「〇〇ちゃんノ」と主張し合うことは、自我を呼び覚ますという意味で発達の意義ある場面と考えられる。そこで問題は子どもがイライラする環境にあると考えられる。イライラの原因としてたとえば、保育室に泣き声や怒り声が蔓延することがあげられる。「かみつき」がおこった直後に、「かみつき」が連鎖する経験はないだろうか。また、「かみつき」が増えつつあるときの保育士のびりびりした緊張感も、子どもの負担になる可能性がある。さらに、1歳児クラスの中で、大きい子どもたちのつもりをもった活動が、それをまだ共有できない小さい子どもに妨げられることも、大きい子どものイライラの一因と考えられる。

⑤保護者対応

噛まれた子どもの保護者に対しては、ほとんどが状況を伝えている。特に「口頭で謝る」と明記されたものも1、2歳児クラスでは3割近くあり、ていねいな対応が要求されている現状が伺われた。一方、噛んだ

表2 かみつきが起こる時間帯

(単位:人, %)

	0歳クラス		1歳クラス		2歳クラス		3歳クラス		4歳クラス		5歳クラス		混合クラス	
早朝から9時頃まで	6	29%	13	33%	6	27%	2	50%	0	0%	0	0%	4	18%
午前の保育	10	48%	18	46%	6	27%	1	25%	1	20%	1	100%	12	55%
午前の保育から昼食への切り替え	5	24%	21	54%	10	45%	2	50%	1	20%	0	0%	13	59%
昼食時	0	0%	0	0%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
昼食片づけからお昼寝への切り替え	16	76%	25	64%	13	59%	2	50%	1	20%	1	100%	9	41%
お昼寝	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
昼寝起きからおやつまで	5	24%	7	18%	2	9%	1	25%	2	40%	0	0%	4	18%
おやつ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
おやつから夕方の保育への切り替え	13	62%	13	33%	9	41%	2	50%	1	20%	0	0%	9	41%
夕方の保育	12	57%	16	41%	10	45%	2	50%	2	40%	0	0%	8	36%
5時以降	2	10%	8	21%	3	14%	2	50%	0	0%	0	0%	1	5%
かみつきのあるクラス総数	21	100%	39	100%	22	100%	4	100%	5	100%	1	100%	22	100%

表3 かみつきの理由

(単位:人, %)

	0歳クラス		1歳クラス		2歳クラス		3歳クラス		4歳クラス		5歳クラス		混合クラス	
ものの取り合い	18	86%	39	100%	22	100%	2	50%	4	80%	1	100%	19	86%
場所の取り合い	13	62%	34	87%	13	59%	0	0%	1	20%	1	100%	10	45%
保育者の取り合い	8	38%	8	21%	5	23%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
愛情表現	5	24%	5	13%	1	5%	1	25%	1	20%	0	0%	2	9%
空腹	4	19%	3	8%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
眠たい時	0	0%	1	3%	2	9%	0	0%	0	0%	0	0%	1	5%
ものや場所を取られそうになっての防衛	16	76%	34	87%	12	55%	1	25%	0	0%	1	100%	17	77%
自分の思いが通らないイライラ	12	57%	26	67%	17	77%	3	75%	5	100%	0	0%	19	86%
相手が泣いていたから	2	10%	1	3%	1	5%	0	0%	0	0%	0	0%	2	9%
家庭の生活リズム	4	19%	8	21%	2	9%	1	25%	1	20%	0	0%	6	27%
家庭の不安定さ	7	33%	13	33%	7	32%	2	50%	1	20%	1	100%	7	32%
その他	5	24%	3	8%	3	14%	1	25%	1	20%	1	100%	2	9%
かみつきのあるクラス総数	21	100%	39	100%	22	100%	4	100%	5	100%	1	100%	22	100%

のも1, 2歳児クラスでは3割近くあり、ていねいな対応が要求されている現状が伺われた。一方、噛んだ子どもの保護者に対しては、伝えると明記されたものは半数を切っていた。毎回は伝えることなく、「かみつ」が繰り返したり、ひどかった場合のみに伝え(全体の30%)、家庭の様子を聞きながら対応を考える(15%)ものが見られた。3%のみではあったが、噛んだ子の親にも「謝る」というものがあった。「かみつ」の原因には、家庭の状況も関係していることとはいえ、「かみつ」を園の対応の不備ととらえてまず謝るという姿勢は、「かみつ」はあってはならないものととらえる上で、大切であろう。また、年度初めに「かみつ」についてクラス懇談会で話したり、クラス便りで伝え、たとえば噛まれた子の保護者に噛みついた子どもの名前は伝えないこと、噛みついた子どもの親には伝えないことなど、方針を伝えておくと

いうトラブル回避の工夫も見られた。

以上より、「かみつ」を減らすためには、昼食後の時間帯の保育士の動きの整理をすること、子どものイライラを軽減するべく、ざわざわした環境ではなく、小グループを組むなどして、保育士の目が行き届き、子どもの要求を受け止められるよう工夫をすることが必要と考えられる。「かみつ」の中には理由がわかりにくいものもあるが、その子なりの理由があるに違いないという思いで、ひとりひとりの子どもの思いにこころをよせることが大切である。

保護者対応に関しては、噛みつかれた子どもの保護者、噛みついてしまった子どもの保護者、それぞれのつらい思いにどこまでよりそって話が出来かが問われている。その際、「かみつ」が繰り返さないようどう手だてを打っているかを伝え、保育士の誠意を形にすることが大切であろう。